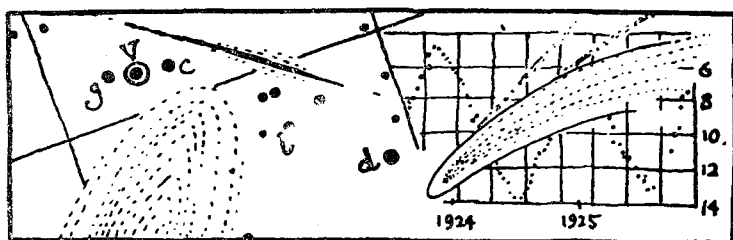


Title	天文同好會觀測部月報
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1932), 12(138): 362-364
Issue Date	1932-09-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/162260">http://hdl.handle.net/2433/162260</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher



## 天文同好會觀測部月報

### 流星課の報告 (37)

課長 小槇孝二郎 (K. Komaki)

今回新たに三重縣津市の幡上俊夫氏の觀測を得た事は、流星觀測網完成の爲大いに喜ばしい事である。此後同氏の奮闘をのぞんでやまない。現在のところ、略々觀測網の完備してゐる地方は北海道、近畿、中國の三地方に過ぎないので、流星課としては來る獅子座流星の觀測上是非とも全國的な觀測網を作りたく思つてゐる。特に奥羽、朝鮮、滿洲に觀測者が皆無なのは甚だ残念

であるから、特志家の奮起を熱望する次第である。

觀測者相互の間には觀測法の統一が望ましい事であるが、現在のところ甚だ不完全の様に思はれる點が多い。随つて觀測法に關する文獻をよく調査せられて進めたいものである。猶觀測報告は翌月初に整理の上、十日頃までに小生宛御届下さる様願ひたい。

觀測者及び觀測數 (Summary for May & June, 1932)

觀測者 Observer	略符 Abbr.	觀測地 (Locality)	五月 March			六月 April		
			回数 Nights	時間數 Duration	流星數 Meteors	回数 Nights	時間數 Duration	流星數 Meteors
小槇孝二郎	Ko	和歌山縣金屋	1	20	5			
廣瀬永治郎	Hr	岐阜縣美濃町	1	45	7	2	78	6
淺野英之助	As	山口縣長府	1	30	1+(1)			
幡上俊夫	Hk	三重縣津市			(3)			
麻生佐七郎	Ab	大阪市	1	20	1			
本田實	Hd	鳥取縣八東村	4	480	23	1	120	2
阪元鐵馬	Sk	福岡縣箱崎	5	190	7	3	130	3
片山雅彦}	K-Y	廣島縣竹原	6	839	49+(36)	9	981	24+(16)
吉井耕一}								
天野吉郎	Am	函館市				1	20	2
下保茂	Kh	札幌市				3	93	1

備考 ( )中の數字は時間外の觀測數を示す。

觀測の概略 (Daily summary of observations)

日 時 Time (J.C.T.)	觀 測 者 Obs.	時 間 數 Dur.	流 星 Meteors	F.	日 時 Time (J.C.T.)	觀 測 者 Obs.	時 間 數 Dur.	流 星 Meteors	F.	日 時 Time (J.C.T.)	觀 測 者 Obs.	時 間 數 Dur.	流 星 Meteors	F.
May					May					June				
2.14*	Ko	20	5	0.8	1.93	K-Y	210	9		24.97	Sk	30	0	0.7
23.92	Hr	45	7	0.8	2.08	〃	244	14		28.99	〃	40	3	0.8
29.89	As	30	1	0.8	2.96	〃	65	5		29.94	〃	60	2	0.8
30.05	Ab	20	1	1.0	6.96	〃	90	5		10.92	K-Y	150	22	
23.89	Hd	120	3		7.14	〃	50	7		14.89	〃	30	3	
24.90	〃	120	5		9.93	〃	180	9		15.05	〃	55	8	
26.91	〃	120	5		June					24.91	〃	155	24	
					21.91	Am	20	2						
4.10	〃	120	10	1.0	2.90	Kh	40	1	1.0	26.10	〃	90	6	
1.98	Sk	30	1	0.2	5.90	〃	30	0	0.8	27.99	〃	100	14	
16.94	〃	60	0	0.1	9.89	〃	23	0	0.7	28.94	〃	125	21	
23.94	〃	60	2	0.6	8.86	Hr	38	2	0.7	29.92	〃	120	14	
28.94	〃	10	1	0.6	9.90	〃	40	4	0.8	7.93	〃	156	12	
29.96	〃	30	3	0.8	8.93	Hd	120	2						

\* 日時は觀測時間の中心時刻を示す。例へばKoが5月2日に行つた觀測を示すと、  
觀測開始；3h 15m，觀測終了；3h 35m，故に中心時刻は 3h 25m，これを日の100  
分の一までにて書き直すと0.14，随つて2日を入れ日時を2.14としたのである。

## 流星群の出現狀況 (Notes on Apparitions of Meteor Swarms)

### 1. 5月上旬の水瓶座 $\eta$ 流星群 ( $\eta$ -Aquarid)

天候其他の關係で觀測せられた方は甚だしく，筆者及び本田氏の 2日早曉行ひたるものと，吉井，片山兩氏が 7日朝觀測せられた丈である。三人の結果から見れば出現は例年並のもので別に著しいものではなかつた。

### 2. 其他の流星群 (Other Swarms)

6月に入つて8日夜，本田氏はヘルクレス  $\theta$  附近に輕射點を有する 3個の流星を得られてゐる。越えて10日に吉井，片山の兩氏は同じヘルクレス座の  $\phi$  附近 ( $\alpha=245^\circ \delta=+44^\circ$ ) に一流星群の有在を見られてゐるが，これは1930d 彗星に關聯するものかも知れない。下旬には27，28，29の三夜に亘り吉井，片山兩氏が龍座  $\eta$  附近 ( $\alpha=222^\circ \delta=+62^\circ$ ) に一流星群を觀測されてゐる。

1932 年 八月

観測者(地名)	三澤(諏訪)	荒木(倉敷)	幡上(津市)	沓掛(長野)	山田(小郡)	木邊(近江)	改發(須磨)	大橋(京都)	下保(札幌)	伊達(大阪)	龜井(花山)
1	缺	11	11	11	缺	11	12	11	11	11	11
2	14	11	11	11	曇	11	12	11	11	11	11
3	13	11	11	11	缺	11	12	11	11		11
4	11	11	11	11	雨	11	12	11	雨		11
5	11	曇	11	曇	曇	11	曇	11	雨		曇
6	11	11	11	11	曇	11	11	11	曇	11	11
7	22	曇	11	11	11	11	11	11	11	11	11
8	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0
11	12	0	0	12	12	12	0		0	0	11
12	0	曇	雨	0	曇	0	0		0	0	曇
13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	忙	0
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	0	曇	0	0	0	0	0		0	病	0
16	0	曇	0	0	曇	0	0	0	0	病	0
17	0	曇	0	0	曇	0	0	0	0	病	0
18	0	0	0	曇	曇	0	0	0	0	病	0
19	0	0	曇	0	0	0	0	曇	0	病	0
20	0	0	0	0	雨	0	0	0	0	0	0
21	雨	0	曇	雨	0	雨	雨	雨	0	0	雨
22	0	曇	0	雨	雨	0	0	0	0	曇	0
23	0	0	0	0	缺	0	0	0	0	0	0
24	11	11	11	11	11	0	11	曇	11	曇	11
25	26	25	病	25	30	0	23	11	27	11	28
26	29	34	病	曇	35	25	40	27	31	35	32
27	28	34	病	30	31	31	41	30	28	35	26
28	39	28	病	28	36	33	缺	28	28	30	30
29	28	26	病	25	缺	26	缺	11	曇	26	25
30	11	11	病	11	22	22	24	11	11	11	22
31	11	曇	病	曇	曇	11	13	曇	11	11	曇
平均	10	10	5	9	12	8	9	9	7	11	10
日数	29	23	21	25	16	30	27	23	27	20	27

## 太陽課より

幹事代理(龜井)

八月分の観測を御報告いたします。

新報告者、荒木健兒氏は倉敷天文臺にて早くより観測されてゐましたが、此月より記録を頂くことになりました。幡上俊夫氏は前號にて一寸御紹介いたしました通り、いよいよ此月より正式に報告して下さる新進の熱心家です。

太陽課の發展! 遅々とはしてゐますが無類の堅實性があります。それだけ、たとへ一人でも新しい同志を得た時は深い喜びを感じます。そして此の頁が報告記録のみを以て埋められる日を、我々観測者仲間が静かに待つてゐます。——以上手頃な望遠鏡を持つてゐて價值多い観測を始めんとする方へ。以下観測者へ——整理及び本稿の都合上、此後は花山天文臺太陽課宛にて観測の御報告を願ひます。

「極年」のために18センチ赤道儀で撮影してゐる太陽寫眞の概略をお知らせいたします(以後この頁の一部を借ることにします)

此月の撮影数は44個、缺測日は5日、12日、21日、31日の四日でしたが、天氣の悪い日が多く、雲の切間から辛うじて撮るなど苦心が相當ありました。8日まで見えてゐた典型的單獨大黒點の西邊に没する時には相應せぬ小さい白紋を伴つてゐましたが、25日に南半球略中央子午線上に突如と現れた一群は哀れな末路に似合はぬ鮮かな白紋を伴つてゐましたので、兩者の對照を面白く思ひました。